

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日（土）～14日（日）

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JR ホテルクレメント高松

プレコングレスワークショップ 10	
企画名	プライマリ・ケアの現場における多職種カンファレンスのプロセスとアウトカムを評価する
日時	2017年5月12日（金） 13:20～14:50
会場	第8会場（高松シンボルタワー タワー棟 4F BBスクエア）
企画責任者	春田 淳志（筑波大学附属病院）
定員	20名
開催の目的・概要	
<p><b>【開催の目的】</b></p> <p>多職種連携が必要とされる分野は医療安全、外科、救急、緩和ケア、在宅医療などさまざまである。それぞれ求められる課題が異なるため、必然に連携のありかたも変わってくる。例えば外科など個々が高いパフォーマンスが求められる連携では個々の専門職のパフォーマンスの高さと明確なコミュニケーション、非常時の迅速な判断などが求められる。一方、専門職間で互いに意見を交わしながらケアや治療の場を考えるプライマリケアの現場では、互いの職種の意見を聞きつつ発信し、患者や家族と試行錯誤して目標や課題を探索・設定し、時に専門職としての役割も柔軟に変化させながら納得できるケアを模索していく。このようなプライマリケアの現場で求められる多職種連携には連携のプロセスとアウトカムの評価が重要である。</p> <p>そこで、本ワークショップはプライマリケアの現場で求められる多職種連携について理解すること、カンファレンスのプロセスとアウトカムの評価の視点を獲得すること、それをもとに現場の連携を振り返り、現場の円滑な連携実践に活用することを目的とした。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>参加者は、多職種が参加するカンファレンスを観察し、日本の多職種連携コンピテンシー（求められる能力）を基盤に、プライマリケアの現場で実施される多職種カンファレンスのプロセスとアウトカムを評価し、その実践をもとに現場の連携を振り返り、明日の現場の連携に活かされるスキルについてディスカッションする。このプロセスを通じて、専門職として価値観が異なる他者と一つの目標に向けて、互いにパートナーとして働くことについて理解を深め、協働の意味を再考する。対象者は、地域で連携に携わっている全ての職種の方である。また本ワークショップは研究の一環として実施する予定である。</p>	